

# 令和5年度個別学力試験問題

## 小 論 文

(福祉健康科学部)

理学療法コース

社会福祉実践コース

解答時間 60分

配 点 100点

### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入してください。
3. 解答は解答用紙の指定された解答欄に横書きで記入してください。
4. 試験時間中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁及び汚損等がある場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 問題冊子及び下書用紙は持ち帰ってください。

問題 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

コロナ禍で不安や怒りをあおったデマの中には、科学を装ったものもあった。国や専門家の見解を受け入れず、「ワクチンを打てば間違いなく死ぬ」「人口削減が目的だ」といった言説を信じる人もいた。科学の知見をどう伝えるかという課題が、社会に突きつけられたと言える。

「作動中の科学」という言葉がある。科学は、現段階で最も確からしいとされる知識の体系だ。研究が積み重ねられている途中では知見は更新され、不確実性も一部含まれる。新型コロナは、その典型だった。

専門家は科学に誠実であろうとすると、確実に近いレベルだと思っても「100%大丈夫」とは断言できない。「現段階では高い確率で起こるデータは得られていない」といった言い方になってしまう。

だが、不安やストレスが強い人は「歯切れが悪い」と感じ、もやもやした気持ちになる。その心のすき間に入ってくるのがデマだ。根拠がない話を SNS で「間違いはない」と断言する「専門家らしき人」に、多くの人が引き寄せられる結果となった。科学コミュニケーションが抱えるジレンマと言えるだろう。

一方で、明らかなデマを打ち消す発信はできたはずだ。多数の人が影響を受ける前に、公的機関が素早く否定する必要があった。米疾病対策センター(CDC)などと比べると、日本の対応は遅れていた。

科学の知見を否定する言説に触れ、それに傾倒してしまった人たちへの発信は、より難しくなる。専門家の中には、言説を信じる原因を「科学的知識の欠如」のみに求め、ワクチンに関する論文やデータなどの根拠を示せばいいと考える人もいたが、逆に反発を招いた面があった。

この方法は「欠如モデル」と呼ばれ、海外でも失敗例が報告されている。重要なのは、単に「正しい情報を発信するだけでいい」という発想から脱却することだ。

まず科学不信の背景に目を向けなくてはならない。実際は、医療や政治への不満や生活上の不安などが関係していることが多いと言われる。公的機関が SNS の投稿などから様々な要因を分析し、それらを少しでも解消するような発信の工夫を求めたい。

最初から政府や科学者に不信感があり、聞く耳を持たない人もいる。どんな人の発言なら予断を持たずに聞いてもらえるか、発信主体も考えるべきだろう。

確かに科学は不確実性を伴う。リスクをどう判断するかは人それぞれだが、私たちの生活は、その時点で最も確からしい科学技術に依拠して成り立っている。その事実をより理解してもらう地道な努力が必要だ。

科学リテラシー(読み解く能力)を身につけてもらう教育も求められる。

(出典：読売新聞オンライン 科学不信の背景を探れ...[虚実のはざま]第6部 私の提言<4>  
内田麻理香氏(東京大学特任准教授), <https://www.yomiuri.co.jp/national/20220331-OYT1T50358/> 2022/08/31 より)

問 下線部の「科学コミュニケーションが抱えるジレンマ」について説明した上で、このジレンマを軽減、解消していくためにどのようなことが必要か、あなたの考えを600字以内(句読点を含む)で述べなさい。